

平成9年度学力到達度調査研究
福島県の児童生徒の学力の到達状況に関する研究
— 小学校5年・中学校2年の調査から —

学 習 指 導 部

研究の要旨

平成5年10月に「学力向上調査プロジェクト」を発足させ、学力向上に資する研究を推し進めてきた。本研究は、福島県の児童生徒の学力の到達状況に関する調査研究であり、平成7年度に続き第2回目である。研究のねらいは、学力の到達状況を明らかにすること、前回調査の結果と比較してその変容を把握すること、今後の指導に役立てるための指導例を提示することである。

その結果、調査した教科の学力の到達状況が把握でき、前回との比較もできた。また学力向上を図る上での課題を探り、授業改善に向けての指導例を提示することができた。

ここでは、報告書としてまとめた中から、その一部を紹介する。

I 研究の概要

1 研究の趣旨

本県における重要な教育課題の一つが「学力向上」であり、福島県教育センターでも、この課題の解決に向けてさまざまな取り組みを重ねてきた。平成5年10月に「学力向上調査プロジェクト」を発足させ、学力向上に資する研究を推進してきた。特に、平成7年度には、「教研式・全国標準診断的学力検査NRT」を用いて、福島県の児童生徒の学力の到達状況に関する調査研究をした。

本研究は、これに続く第2回目の調査研究であり、次の点に主眼を置いた。

(1) 本県の児童生徒の国語、算数・数学、英語の学力の到達状況を「大領域」、「中領域」別に見た場合、全国のそれと比較してどの程度であり、どのような傾向や特徴があるのか。また、成績分布にはどのような特徴があるのか。

(2) 平成7年度の調査と比較した場合、「大領域」、「中領域」ごとの学力到達状況や成績分布にはどのような変容があるのか。

(3) (1)、(2)の分析、考察から本県の学力向上を図る上での課題と思われる領域や項目に関して、その課題解決のためにどのような指導例が考えられるか。

等について、調査、分析、研究を進め、平成8年度研究「『学力到達度調査』に関わるテストの結果分

析と考察」等を活用しながら、各学校における教科指導の改善、授業の改善の視点を提供し、本県の「学力向上」に寄与したいと考えた。

2 調査の方法

調査の方法は、平成7年度学力到達度調査とほぼ同様である。

(1) 使用する検査問題：「教研式・全国標準診断的学力検査・NRT」（図書文化社）

検査問題の内容は、前回の調査と同じである。

(2) 対象学年及び教科：小学校5年国語、算数、中学校2年国語、数学、英語

(3) 実施時期：平成9年4月～7月

(4) サンプル数：抽出数の信頼度を県全体で95%以上に設定し、1教科について1500以上とした。

II 各教科の学力到達状況と授業改善

本研究は、「平成9年度学力到達度調査研究 福島県の児童生徒の学力の到達状況に関する研究」として報告書にまとめた。ここでは、教科ごとに調査結果の一部と指導例の一部を紹介する。

用語について

○ 領域ごとの通過率
= $\frac{\text{各領域ごとの個人の正答率の合計}}{\text{受験した児童（生徒）の総人数}} \times 100$

○ 全国比 = $\frac{\text{本県の通過率}}{\text{全国の通過率}} \times 100$

(100であれば、全国平均という意味であり、数値が高いほど到達状況が優れている。)